水や山うかげ，人や世間うかげ

龍郷町立赤徳中学校　一年　四位（しい）　碧杜（あおと）

「お腹すいた。少し待っててて。」

仕事から帰ってきた母は，無造作に大島紬の髪飾りで髪を束ね，慌ただしくご飯の支度をする。ぼくは，黒糖焼酎を飲む父と一緒に，でき上がりを待つ。米が炊ける温かい湯気とみそ汁の香りが，部屋一杯に広がる時間。幸せを感じながら，お腹がグルグルと鳴る。

ぼくの住む奄美大島は，海に囲まれマリンスポーツをしたり，モーターパラグライダーで空から鳥のように，景色を楽しむ人も多い。また，東シナ海と太平洋が同時に見える場所があり，地平線と空の境目が分からず，空に続くじゅうたんのように地形が広がる絶景のポイントがある。

森に入ると，亜熱帯の原生林。風が心地よく小動物の声が聞こえる。固有種が多く生息し，雨によって輝きが増すと生き物の楽園となる。「東洋のガラパゴス」と言われ，周囲

の島々と共に，世界自然遺産に推せんされている。このような環境の中で，水はとても密接なものである。

特産物の大島紬，黒糖，焼酎など水が無いと作り出せない物であり，雨によって森の生き物は，命をつなぐことができる。体内の約六十パーセントが水分である人間にとって，水は必要不可欠だ。昔から衣・食・住に多くの影響を与えている。水のありがたさを知ると同時に，毎年怖さも経験する。それは台風である。

台風の通り道となることが多い奄美大島では，夏になると，天気予報を気にするようになる。農作物の被害，船の避難，土砂崩れなど心配ばかりだ。大雨の音，川の水位が高くなると不安になる。でも，台風が去った日は空気がおいしく感じ，アスファルトに残った水たまりから，モワっと夏の香りがする。山の上では霧が立って，ドライアイスのように広がり，太陽が射す。まるで空から神様が降

りてくるような気持ちになる。この時，自分達人間も，水の惑星の一員なのだと強く感じてしまう。

以前，父から

「水や山うかげ，人や世間うかげという言葉を聞いたことあるか。」

と尋ねられたことがあった。知らなかったぼくは，調べてみることにした。それは，島のことわざで「水があるのは森の木のおかげ，また，森の木も水のおかげである。人も同じで，周りの人に生かされ，助け合い支えられている。いつでも感謝の気持ちを忘れず，人の役に立つ人でありなさい」という意味だった。結の精神を子供達に伝えていくよう，昔はよく言われていたそうだ。このことわざを知ったぼくは，水の働きと人は似ていると感じた。

何になるのか分からない雨粒が，降り注いだ場所で，一生けん命働く。きれいな海や山かもしれない。暑い砂漠かもしれない。どん

な環境であっても，水は生物に希望を与える働きをする。そして希望の連鎖を人は頂いている。

ぼくは中学生で，まだ将来を思い描く力のない雨粒だ。どこに進むだろう。どんな人と知り合うだろう。未来の不安は，数え切れない程ある。でも雨粒は集まると，大きな力となる。これから先，明るい道が続いていると信じて，時間の流れに乗ってみるのもいいのかもしれない。雨粒の旅のようで面白い自分が発見できるだろう。